

日銀総裁って何する人？

空白だった日銀総裁がようやく決まりました

日銀総裁は、言うなれば日本銀行という会社の社長さんです。ただし日本銀行は、一般の株式会社等とは異なります。また政府の官庁や組織でもありません。日本銀行法によると日本銀行の目的は、日本銀行券（お札）の発行（硬貨は政府が発行します）、物価の安定を通じた経済成長、決済システムを安定的に運行することで、金融システムの安定に役立つこと、と定められています。日本国内で流通するお金のしくみをしっかりと守ることが日銀の大きな仕事と言えます。

日銀の仕事の中で最も重要な仕事は、物価の安定を通じた経済成長です。「物価」とは文字通りモノの値段です。モノの値段は、上がり続けても、下がり続けても私たちの生活、日本の経済に悪い影響を与えます。物価が上がり続ける状態のことをインフレーション（インフレ）、逆に物価が下がり続ける状態のことをデフレーション（デフレ）と言います。日本は1990年代半ばから約10年間とても厳しい不況に襲われました。この時代は、物価の下落に伴う不況の状態が連鎖的に続くデフレスパイラルの状態にありました。日銀は、物価の大きな変化によって経済成長に悪い影響を及ぼさないように物価を安定させる為の様々な政策を行います。これを金融政策と言います。金融政策は、日銀の政策委員会で決定します。（裏に続きます）

金融政策を決める会議は金融政策決定会合と呼ばれ、この政策委員会の議長を務めるのが日銀総裁です。色々なデータを調べ、日本の経済が今どのような状態にあるかを知り、日本経済を安定的に成長させるためにどのような政策を行うべきなのかを考え、政策委員会で他の委員と議論をし、必要な政策を決定するのが日銀総裁の最も大きな仕事です。

日銀の金融政策は、日本国内に流通するお金の量の調節によって行われます。正確には金融機関同士がお金をやりくりする市場で、お金を借りる金利を調節します。日銀が持っている国債を市場で売れば日銀にはお金が入ってきます。すると市場のお金の量が減ります。お金の量が減るとお金の価値が上がるので、お金を借りる金利は上がります。逆に日銀が市場から国債を買うと、日銀は市場にお金を払います。するとお金の量が増えます。お金の量が増えるとお金の価値が下がるのでお金を借りる金利が下がります。こうして日銀は金利を調節します。これをオペレーション（公開市場操作）と言います。基本的には物価が上がっている時には金利を上げ、物価が下がっている時には金利を下げてお金を借りやすくします。こうした金利の上げ下げを中心とした金融政策を決める責任者が日銀総裁です。

日銀の総裁・副総裁は、国会の同意を得て内閣が任命します。どんな人を候補者にするかは内閣に決定権があります。今回民主党は、候補者個人の能力や資質ではなく、ただ財務省出身という理由だけで総裁副総裁合わせて3人を不同意にしました。その結果日銀総裁が3週間不在という事態に陥りました。日銀総裁人事は日本国内のみならず世界にも大きな影響を与えます。民主党のやり方は、ただ政府を困らせてやろうと自分たちの都合のみを考えた極めて無責任な行動です。民主党には野党第一党として責任ある行動を求めます。

おこのぎ八郎さんを支援する会

横浜市神奈川区反町1-7-1

TEL:045(323)6000

FAX:045(323)2974